

令和  
6年度

# 石狩教育局 指導3班通信

ISHIKARI  
District Office of Education  
北海道教育庁石狩教育局  
令和6年8月9日発行 第5号

今号では、高等学校教育指導班から「学習指導と学習評価の一体化」（第1次訪問から得た情報の整理）、義務教育指導班から「道德教育」、社会教育指導班から「学校運営協議会における部会（分科会）編成の工夫と熟議」について紹介します。

## 高等学校教育指導班

### 主な協議内容

「観点別学習状況の評価の在り方について」  
「定期考査の位置付けについて」

### 各校の現状

「観点別学習状況の評価について、  
各教科等における単元や内容のまとまりの評価規準の見直しが課題である。」  
「定期考査の見直しを行っている。」

- ・ 4回の定期考査のうち、2回を廃止し、学期末考査のみ実施する
- ・ 4回の定期考査を残し、教科の裁量によって、実施するしないを決定する
- ・ 定期考査を全て廃止する の3つに分かれる。

### ポイント

- ・ 学習指導と学習評価は、学校の教育活動の根幹に当たり、教師が自ら指導のねらいに応じて授業での生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくことで、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善にもつながることから、組織運営の改善及び授業改善に向けた学校教育全体のサイクルに位置付けてください。
  - ・ 令和4年度入学生から観点別学習状況の評価を指導要録に記載することを踏まえ、目標に準拠した観点別学習状況の評価を行うに当たっては、観点ごとに評価規準を定める必要があることから、学習指導と学習評価の一体化に係る校内研修等を行い、評価について対外的に説明責任が果たせるよう適切に実施してください。←
- なお、校内研修の実施に当たっては、教育局の指導主事を積極的に活用してください。
- ・ 日々の授業の中では生徒の学習状況を把握して指導に生かすことに重点を置きつつ、各教科における3観点の評価の記録については、原則として単元や題材などのまとまりごとに、それぞれの実現状況が把握できる段階で評価を行うことを踏まえることで、各学校における定期考査の位置付けが決まります。

#### 【参考資料】

- ① 高等学校教育課程編成・実施の手引
- ② 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料
- ③ 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について
- ④ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（高等学校）



第1次訪問では、自校における各種教育計画や学校評価等の資料に基づき、教育課程や学習指導、生徒指導等の様々な事項について、協議を通して成果や課題を学校と教育局で共有することができました。今号では、特に、「学習指導と学習評価の一体化」についてポイントをまとめましたので、今後の指導の参考としてください。

## 義務教育指導班

令和6年7月に、道徳教育推進リーダーとともに、道外の小学校を視察し、道徳の授業を参観しました。今回は、参観した千葉県の船橋市立峰台小学校における授業づくりのポイントについて紹介しますので、各学校における学習指導過程の工夫の参考にしてください。

### 第4学年

### 相手を大切に作る心 B-(8)『礼儀』

#### ■ 問題意識をもたせるために

授業の導入場面では、事前に行ったアンケート結果を、ICT機器を活用して提示し、なぜ礼儀正しくしているかを問うことによって、子どもたちが問題意識をもって考えることにつながりました。また、学習の中で、適宜、アンケートの結果に立ち返ることで、礼儀についてのこれまでの自分の考えと、学習を通して気付いた礼儀についての自分の考えの変容を見つめ直していました。

#### ■ 自己の(人間としての)生き方についての考えを深めるため

授業の展開場面では、道徳的価値の理解を自分との関わりの中で考えることができるよう、対話を位置付けました。子どもたちは、多様な感じ方や考え方を踏まえ、自分自身の体験等を想起して自己を見つめ、礼儀について考えを深めました。

授業づくりのポイントについては、北海道教育委員会 HP「特別の教科 道徳」授業づくりハンドブックにも掲載(右のQRコード参照)されていますのでご活用ください。12月開催の「道徳教育パワーアップ研究協議会」で一緒に学びましょう！ (義務教育指導班 仲川 太郎)

【授業で活用したアンケート】

礼儀正しくしていますか



- いつもしている
- まあまあしている
- わからない
- あまりしていない
- 全くしていない

【授業で活用したアンケート】

なぜ礼儀正しくしていますか

- ・自分も相手もよい気持ちになるから
- ・相手が嫌な気持ちにならないように
- ・親にそう言われてきたから 等



## 社会教育指導班

今号では、管内教育推進の重点3の取組を進めるため、学校運営協議会における部会(分科会)編成の工夫と熟議について紹介します。

### 部会(分科会)編成の工夫

課題別部会(分科会)を設けることも、熟議を活性化させる方法の1つです。

#### 学校の課題に応じて部会を設定する

学習(学力・体力)、生活(健全育成)、地域連携(広報)など、学校の課題に応じて事務局にて設定

#### 委員の協議により課題を整理し、部会を設定する

既に熟議した「育てる子ども像」について、年度当初に委員が課題について協議し、部会やテーマを設定し、年間をとおして熟議を重ねる

#### 委員の人数により、部会数を検討する

管内教育推進の重点3に係り、時間・人数・ねらい等に合わせた熟議の進め方や、年間計画と部会の設定等、各学校(各協議会)の状況を伺いながら、学校運営の強化につなげたいと考えています。訪問の要請は、社会教育指導班只野まで御連絡ください。(ishikyo.somu1@pref.hokkaido.lg.jp)

### 熟議のプロセス

熟議とは、よりより集団(学校)生活や人間関係を築くために、「協働して取り組む一連の自主的な活動」を「話し合い」を重ねながら生み出そうというものです。

具体的には、下記のようなポイントを満たしたプロセスを指します。

1. 多くの当事者(保護者、教員、地域住民等)が集まって、
2. 課題について学習・熟慮し、議論をすることにより、
3. 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
4. それぞれの役割に応じた解決策が洗練され、
5. 個々人が納得して自分の役割を果たすようになる

文部科学省:「学校運営協議会」設置の手引きより